



## 平和な地球をめざして



パレスチナ、ガザでのジェノサイド（大量虐殺）が止まりません。ロシアのウクライナ侵略戦争は2年を超えました。これらは日本の外交や内政にも大きな影響を与えています。安保3文書や軍事費43兆円等は、平和憲法を骨抜きにし国民生活も国の形も大きく変えようとしています。「新しい戦前」が現実味を帯びてきました。

その一方で核兵器禁止条約は締約国が70になり、国際社会では「核を無くせ」の声は大きくなっています。

このような社会情勢の下で、日本だけでなく21世紀の国際社会においても、戦争の歴史や実像を身近に知ることが出来る平和記念館の必要性が増しています。子どもたちに対する平和教育が非常に重要です。しかし戦争経験者は年々減少し、さらに教育現場において、戦争の実態や歴史の真実を教えることに「歴史修正主義」の強い圧力という困難さも増しています。

私たちは、神戸空襲や戦時下の実像、戦争の現実を伝える平和記念館の設置を神戸市や市議会等へ要望し、講演会や写真展等にも取り組んできました。昨年も「神戸空襲と神戸港の写真展」を開催し、在日コリアン等の新たなコーナーを設けるなど、多くの方に見ていただきました。



厳しい現実があります。しかしあきらめることなく2024年も活動していきます。引き続きご支援をお願いします。

世話人代表 長久武司

### 歴史公文書館の情報

私たちは平和記念館の建設を神戸市に要望してきましたが、これまで前向きな回答はありません。その中で、神戸市が建設計画を進めている歴史公文書館（兵庫区本町2丁目）に、常設展示として神戸空襲や戦時中の遺品などを展示することを求めています。

歴史公文書館は岡方倶楽部の建物改修（3階 524㎡）と新棟増築（5階 1595㎡）で整備され、建物は2024年3月～2025年秋ごろ完成予定です。その後、内装関係の工事を経て、公文書等収蔵物・展示物の搬入が行われ、2026年春の開館予定で進められています。

常設展示は、開港以後の神戸の歴史全体を回顧する内容が検討されており、そのスペースは約28㎡が2部屋というものです。別途「企画展示」については講堂（130㎡）を活用することが検討されており、いずれも岡方倶楽部会館です。

## 2023 神戸空襲と神戸港の写真展 開催

2023年12月3日(金)から8日(水)までの6日間、長田区文化センターロビーで開催しました。入場者は335名でした。

展示内容は①「神戸大空襲と戦争体験」、②「軍需産業の拠点・兵站基地として使われた神戸港、飢餓作戦、神戸の平和運動の取り組みとしての非核神戸方式」、③「戦争と在日コリアン」、④「戦争と子どもたち」、⑤「各地の特徴のある平和記念館」、⑥「神戸市の戦災地図」6つのテーマで構成しました。



「戦争と在日コリアン」では、戦争当時の生産人口の減少を補うために、日本の植民地とされた朝鮮から多数徴用され働かせられた事実についても説明・展示をしました。

「戦争と子どもたち」では、戦争に動員され育っていく子ども達の姿、空襲によって爆撃から逃げ理由もわからずおびえ、住むところも教育も奪われていく子ども達の姿を展示しました。また、広島や長崎に落とされた原爆の被害写真も展示しました。

写真展の開催日は、ハマスのイスラエル攻撃と人質拉致に対する反撃として、イスラエル軍の無差別の攻撃により、ガザ市の学校や病院、市民の居住区に対する爆撃と地上軍による攻撃・進行による戦争の生々しい映像が報道され、建物が破壊され、子どもや女性の死者が急増する中でした。

展示場所は限られていましたが、写真に加え説明の多い写真展となりました。来場された方々は、説明も熱心に読まれ、来場者の約半数の174名の方がアンケートを提出され約80%の方が来て「よかった」と答えていました。年齢構成は70・80代65%、50・60代約30%、40代以下が5%でした。(M)



### 【参加者からの感想文抜粋】

- 「本物の新聞や写真、戦争の体験をした人の話など見れて、いかに戦争が残酷なことかがわかりました。」(10代)
- 「貴重な資料の数々でした！未来に語り継ぎたいと思いました。」(40代)
- 「神戸に長年住んでいて、神戸空襲の事はほとんど知らないし、阪神淡路大震災のカゲに隠れて？そんな昔の事は顧みられなくなってきているのでは？」(60代)
- 「見たことのない貴重な資料が見られた」(60代)
- 「戦争と子どもたちのコーナーの昭和16年時、朝の体操コーナーはとりわけ幼少期の子供たちが、戦争に巻き込まれて犠牲になっていく様子が数枚の写真ひとつひとつから当時の空気が伝わってきて何とも言えぬ痛々しい気分を味わいました。」(70代)
- 「この瓦礫を見るとき、ガザのテレビ報道と重なります」(70代)
- 「現在と昔の戦争も同じだと思いました。人は死に家々はつぶされている。平素は人が殺されると大問題になるのに、戦争では何万人死のうと当たり前。戦争をしてはならない。」(80代)
- 「期間限定でなく市民や子どもたちがいつでも学べる常設の展示ができる施設が求められていると思います。」(市議員)
- 「空襲のこと、朝鮮人のと、戦争の時代についてよく調査され勉強になりました。78年も同じことが世界で続いているのですね。」(80歳以上)



# やっぱり平和記念館が必要

## — 学習会「平和教育と平和記念館」開催 —



昨年 10 月 1 日神戸市中学校教員の山本優先生を講師に標記の学習会を開催しました。(31 人参加)

お話はまず、先生がどんな記念館があったら良いかを過去に見学された記念館も参考にしながら話され、次に学校現場における平和教育の現状について話されました。今、学校現場における平和教育がどのようになっているのかとても興味のあるところでした。超多忙な日々の教育現場の中で、平和学習として「何を」「いつ」「どのような形で」教えるかは、先生の知識不足や教育現場での政治的な要素とも相まってとても難しい状況を作り出しています。お話を聞いて「やっぱり、そうだろうなあ」というのが率直な思いでした。

まもなく戦後 80 年になろうとしています。その記憶は薄れるばかりです。しかし、一方で、日々放映される世界の戦争はその悲惨さをとても分かりやすく伝えているはずでもあります。それなら、神戸に平和記念館があったら、もっと自由に、もっと身近に分かりやすく子ども達に伝えられるのではないか、教育実践の場としてとても有効に活用できるのに、と思わずにいられません。先生のお話のまとめもそんな記念館を作りたい思いにあふれていました。(K)



## 今声をあげないと「茶色の朝」を読んで

フランク・パヴロフ 著 藤本一勇 訳 (大月書店)

今から 11 年前、フランスでベストセラーになった「茶色の朝」という本をご存じでしょうか。現在の日本にぴったりの寓話です。ひとことで言えば全てのものが茶色に染まっていく。猫も犬も新聞もテレビも本も人々の服も、そして朝までも茶色にならなければ生きていけない物語です。(フランスで「茶色」はナチスを連想させる色です)



「ナチスが共産主義者を攻撃した時少し不安だったが、自分は共産主義者でなかったから何も行動しなかった。次に社会主義者を攻撃。それから学校、新聞、ユダヤ人等次々と攻撃した。そしてナチスは教会を攻撃した。自分は牧師であったから行動に出たがその時はすでに遅かった」というニーメラー牧師の告白もあります。

現在「新しい戦前」ともいわれているように、政府は日本を急速に「戦争できる国」に変えようとしています。朝起きたら「茶色」以外は排除、そんな朝が訪れないように私たちはいつも考え続け、声を上げることが大切なのではないでしょうか。

私は今「この物語は本当だよ。戦争はこんな風にやってくるのだよ」と叫びたいのです。この瞬間も多くの子供たちが戦争の犠牲になっています。ぜひ子どもたちと一緒にこの本を手にとってみてください。(下司幸子)





## こんな平和記念館（資料館）があったらいいなあ～ ⑤

社会科教師として30年余り教鞭をとってきました。平和教育の節目として戦後50年、60年、70年（75年）を経ています。社会科の授業のみならず、道徳や校外学習、その他の場面においても平和教育・平和学習の視点を持ち続けてきました。

戦後世代である私の学びの原点は、戦中世代の両親、明治生まれの祖母（祖父は父方母方共に日中戦争で戦死）から聞かされた15年戦争の経験です。学校の恩師にも戦中世代は多く、従軍や空襲の体験を直に聞くことができました。海軍航空隊の宿舎だった我が家での特攻出撃した青年たちとの交流、満州からの命懸けの引揚げ、神戸や大阪での空襲で一命をとりとめた経験など、生々しい証言の数々が記憶に刻み

込まれています。

これまでの教え子たちにも家族・親戚からの証言を大切にするように伝え続けてきましたが、最近は祖父母も戦後生まれという生徒が大半となり、戦前・戦中の経験を直接聞けなくなってきたことに危機感を抱いています。沖縄の平和祈念資料館では証言の録音を聞ける展示の充実ぶりが印象に残りました。神戸から出征した兵士、神戸空襲の被災者などの証言を容易に聞ける手段は「NHK 戦争アーカイブス」などごく僅かと思われま

す。神戸の平和記念館に保存・展示される資料には、いま集められる限りの証言も含まれ、後の世代に受け継がれ、恒久平和へと繋がっていくことを願っています。（井吹台中学校 木方毅）

☆「こんな平和記念館（資料館）があったらいいなあ～」は皆様からの投稿をお待ちしています。



### ☆☆☆ 会からのお知らせ ☆☆☆

- ◇ 「新聞うずみ火」代表の**矢野宏**さんの講演会を6月下旬（土、日）に行います。空襲被害と国家賠償の問題に取り組まれてきた矢野さんに、「平和記念館」の役割、戦争と平和にかかわる現在の世界、日本の情勢等をお聞きしたいと思っています。詳細は後日お知らせします。
- ◇ 昨年の「2023神戸空襲と神戸港の写真展」会場で寄せられた募金は48,953円でした。ご協力ありがとうございました。

連絡先：神戸に平和記念館をつくる会 電話 090-6370-9317（長久武司）  
募金振込先：郵便局〔店番〕438 普通預金〔口座番号〕8808444